

したところ、これから新規のところはしっかりとアンケートをとっていく、それから決定していくということがございましたが、できるだけ新規に、そういった長期にわたる設備をして、下水道の整備をしていくんじゃないし、できるだけこれからは合併浄化槽をつくっていただいて、そのとき思い切って補助をして、あとは利用される方にそれぞれ合併槽を使っただけというほうが、本当に将来のことを考えた場合には有効じゃないかと思うんですが、これからの未整備地区、今、途中、まだ飛渡瀬とか江南とかありますけど、そのほかについては、思い切って決断をするということが可能かどうか、ちょっとそこらあたりニュアンスを、どういう考えを持っておられるか、ちょっと教えてください。

○議長（山根啓志君） 前企業局長。

○企業局長（前 政司君） 議員がおっしゃったとおり、前回のアンケートでも50%程度ということがありますし、高齢化も進んでいるところで、なかなか接続率の向上は見込めないということで、議員おっしゃるとおり、合併浄化槽の整備で個人が好きなときに修繕ができると、そういう方針がいいのではないかと考えております。

○議長（山根啓志君） 12番 林議員。

○12番（林 久光君） 当市にとりまして、10年先、20年先の計画というのは、住民も高齢化等で非常に難しいわけなんですね。計画どおり事業が実施されることは本当に至難のわざと言わざるを得ません。変化していく地域の実情や住民の意向を的確にくみ取って、スピーディーにこういった行政に反映していただくようお願いしたいと思います。

ちょっと物足りんかもわかりませんが、以上で私の質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（山根啓志君） 以上で12番 林議員の一般質問を終わります。

この際、暫時休憩いたします。

（休憩 11時32分）

（再開 12時30分）

○議長（山根啓志君） 休憩前に引き続き、会議を開きます。

2番 酒永光志議員。

○2番（酒永光志君） 皆さん、こんにちは。傍聴席の皆様、本日は傍聴まことにありがとうございます。2番議員の酒永光志、通告に従い、2点の一般質問をいたします。

私の本日の運勢は粘り強く物事に当たれば一番の運勢とありましたので、粘り強い質問に努めたいと思います。執行部の皆さんには答弁よろしく願いをいたします。

最初に、市立三高中学校の耐震化についての質問です。

平成28年第1回江田島市議会定例会において、私は、一般質問に立ち、江田島市立中学校施設空調設備設置工事について、校舎が新しい江田島中学校と能美中学校の2校の空調工事の予算案に対して、大柿中学校、三高中学校を含めた4校同時の施工とすべきと執行部にただしました。執行部からは、平成29年度は大柿中学校、平成30年度は三高中学校を、それぞれ空調工事とあわせ耐震化工事の実施を想定しているとの答弁がありました。その後、大柿中学校については1年前倒しで、渡り廊下の耐震化工事と

あわせ空調工事の補正予算が昨年12月定例議会で可決されており、耐震化の道がスタートしております。

しかしながら、三高中学校については、平成29年度で実施設計、平成30年度で事業施工とまで保護者や自治会長にも説明がなされたにもかかわらず、新年度当初予算に設計費等の予算計上がなされておられません。市民にはっきりと公言、約束された事業と認識しておりますが、予算計上がなされていない理由を伺います。

次に、街路灯の安全対策について質問いたします。

去る2月7日、福山市において、街路灯が倒れ、走行中の乗用車を直撃し、運転していた女性が負傷する事故が発生したことは皆様御承知のことと思います。福山市は、その事故を受け、街路灯を緊急点検した結果、9本が倒れる可能性があり、46本は補修が必要なことから新年度に工事を行うと報道にありました。倒れたものと同様の街路灯は本市にも多くあると思いますが、他の外灯等を含め、本市の対応を伺います。

以上、よろしく願いをいたします。

○議長（山根啓志君） 答弁をお願いします。

明岳市長。

○市長（明岳周作君） 酒永議員さんから二項目の御質問をいただきました。

初めに、まず私が三高中学校の校舎耐震化について及び街路灯、防犯外灯の安全対策についてお答えをし、その後三高中学校の校舎耐震化について教育長からも回答をいたしますのでよろしくお願いいたします。

まず、三高中学校の校舎耐震化についての御質問にお答えをさせていただきます。

本件に関するこれまでの答弁内容でございますが、平成28年第1回江田島市議会定例会で、平成30年度に三高中学校の耐震化工事とあわせて空調の工事をするという想定を今のところはしていると当時の田中市長が答弁をされておられます。

平成29年度当初予算で、教育委員会から三高中学校の耐震化工事の設計経費の要望がございました。平成29年度当初の三高中学校の生徒数は28人の予定であると聞いております。一番少ない学年で7人、多い学年で13人です。私自身、平成18年度に統合した秋月小学校で子供3人を育ててもらいました。小規模校のよさも十分承知はしております。その経験を踏まえた上で、私の考え方といたしましては、子供たちには、集団の中で多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することで、一人一人の資質や能力が伸びていくと信じております。

最近では、沖中学校が能美中学校と、切串中学校が江田島中学校と統合いたしました。統合した後の生徒の声としては、行く前は多少の不安はあったけれども、友達がふえていくのが楽しい。いろいろな人がいる。頑張っている人を見つけたので自分も頑張りたいというものがありました。

平成21年に出された学校統合検討委員会第2次答申では、三高中学校は、能美中学校の新校舎建設の時期をめぐりに能美中学校と統合するとされております。新年度に設計費を計上しなかったことにつきましては、私は、三高の子供たちの教育環境をどのようにしていくことが、未来ある子供たちのためになるかということを第一義として考えた結果であります。

施政方針でも皆様方に申しあげました、江田島市そして市民にとって何が最善なのかという点を唯一の判断基準として、議会の皆様や市民の皆様と議論を尽くし、施策を進めていきたい、場合によっては、これまでの物事の考え方や進め方を変えることが求められるかもしれません。しかし、それが市にとって、あるいは市民の皆様にとって最善の道であるならば、果敢に変革に取り組みたいと私は思っております。

今後は、教育委員会を中心に、保護者や地域の方々に説明をさせていただく機会をいただきながら、子供たちの教育環境を整備してまいりたい、そのように強く思っているところでございます。

続いて二項目めの街路灯(防犯外灯)の安全対策についてお答えをいたします。

議員御指摘の倒れたものと同様の街路灯につきましては、国道や県道に332本ございます。これらの街灯は、広島県の管理でございますので、県において、平成25年度に点検し、安全対策が必要なものについては既に対応されております。その後は、道路巡視やパトロールにより確認をしており、ふぐあいが見つかった際には、必要な修繕をその都度行っているとのことであります。

また、本市が管理する外灯といたしましては、港湾や漁港の施設内に655本設置してあるほか、公園等の公共施設に附属する外灯などもございます。これらの外灯につきましては、それぞれ管理する部署におきまして目視による点検などを実施し、腐食などの異常が発見された場合には必要な修繕を行っております。このため、現時点においては、緊急的な安全対策が必要な外灯はないものと現時点で認識をいたしております。

なお、防犯外灯につきましては、市道の電柱や支柱または軒下など合わせて5,087カ所に設置してありまして、そのうちの約4,000カ所は、平成26年度LED化した際に点検をし、危険な支柱については取りかえるなど対策を取っております。ちなみに、支柱に設置されている防犯外灯につきましては約2,000本でございます。防犯外灯の故障や危険度情報につきましては、自治会等からの連絡により、その都度適切に対応しております。

今後も定期的な点検パトロールの実施や自治会などへの情報収集の協力要請など、適正な維持管理による未然の事故防止に努めてまいります。

以上でございます。

○議長(山根啓志君) 塚田教育長。

○教育長(塚田秀也君) 三高中学校の校舎耐震化についてのお尋ねでございます。

教育委員会といたしましては、平成29年度当初予算で、三高中学校校舎の耐震化工事に係る実施設計等の経費を要望し、市長部局と協議を重ねました。その結果、当初予算には計上しないという結論に達したということでございます。

これまで、学校統合の説明会では、保護者、地域の方々から強い反対の御意見をいただいております。しかしながら、中学校で過ごす3年間は、多くの同級生とともに学習や運動に励み、社会に出るための基礎づくりをする重要な時期でございます。とりわけ、学校生活の大部分を占める授業では、多様な意見を交わし、ともに切磋琢磨する場面が求められます。

教育委員会としましては、そうした教育活動を行うため、教育環境を整備していくこ

とこそが三高の子供たちに必要であると考えます。

三高中学校の生徒数は現在38名で、来年度は28名の予定です。今後も30人程度で推移し、生徒数の増加は見込めない状況であります。

今後、教育委員会としましては、学校統合に向けて話し合いの場を持ちたいと考えております。

以上でございます。

○議長（山根啓志君） 2番 酒永議員。

○2番（酒永光志君） それでは、最初の言葉どおり、粘り強く質問をさせていただきます。

最初に、市立三高中学校の耐震化についてでございます。

ここに、平成28年3月11日、2月定例会第4日目の議事録のコピーがあります。執行部の皆さんも読んでもらっていると思いますが、議会で、しかも定例会の本会議において、議長及び議員を前に、さらに傍聴者を前にして、執行部が、最終的には市長が約束された三高中学校の校舎耐震化及び空調工事について、その約束が守られないことについて、どのようにお考えか伺います。

○議長（山根啓志君） 山本総務部長。

○総務部長（山本修司君） 議員御指摘の定例会議事録については、私も今回御質問をいただいた後、再三読み返しをさせていただいております。確かに、議員御指摘のとおり、当時の田中市長が、執行部としては、29年度は大柿中学校、30年度は三高中学校というような想定を今のところはしておりますというふうに答弁をされております。もとの、現明岳市長の答弁に立ち返らせていただきますが、明岳市長は、施政方針でも述べられておりますように、江田島市、そして市民にとって何が最善かということのを唯一の判断基準として、これから市政に立ち向かわれていかれるということを施政方針で述べられております。その中で、子供たちの教育環境を整えるというただ1点を判断基準とされたときに、ここは一度議論を立ち戻って、子供たちにとって何が最善なのかということのを唯一の判断基準として、子供を中心に据えた中で、三高の子供たちの教育環境を整えるためには何をすべきかということで、保護者の皆さんともう一度議論を闘わせていただき、その後に、このことについてはゆっくり検討したいということで、今回は、当初予算への計上は見送らせていただいたということでございます。

以上です。

○議長（山根啓志君） 2番 酒永議員。

○2番（酒永光志君） 総務部長のほうから答弁があるとは思いませんでしたが、昨年8月31日、教育長、教育次長、学校教育課長が三高会館にわざわざ来られ、三高中学校のPTA会長、沖美町自治会連合会長を前にして、江田島市、これは市長、市議会も含めて、江田島市の決定事項として次のことを報告されております。

一つ目は、三高中学校の耐震化についてでございます。平成29年度に耐震化の実施設計を行い、平成30年度に工事着工、完成をさせる。また、二つ目に、耐震化にあわせて全教室にエアコンを取りつけるとの2点についての報告であります。これについては、市長からも指示があり、報告に来たと聞いておりますが、間違いありませんか、お

聞きします。

○議長（山根啓志君） 小栗教育次長。

○教育次長（小栗 賢君） 細かい言葉のあやはあるかと思いますがおおむねそういうことだと思います。ただし、エアコンについては全教室ではなくて普通教室ということだと思います。

○議長（山根啓志君） 2番 酒永議員。

○2番（酒永光志君） その説明の中で、今回というかその日に説明されたことについて、各自治会や各小学校のPTA会長に報告してよいかと確認したそうでございます。その際、決定事項なので報告してもらってもよいとの回答があったと聞いておりますが、これについても間違いございませんか。

○議長（山根啓志君） 小栗教育次長。

○教育次長（小栗 賢君） 決定事項なので伝えてくださいというふうには言ってないです。あくまでも予算のことでございますので、来年度の予算には上げていきます。それで、そのことについて言ってもいいかということでございますので、情報提供してきましたので、それは構いませんというふうにお話しました。

以上です。

○議長（山根啓志君） 2番 酒永議員。

○2番（酒永光志君） 私も直接やりとりは聞いておりませんので、そこらあたりの言葉のあやかというのがあったかと思いますがけれども、一応は確認をされた、それについてオーケーという返事があったということでよろしいですね。ありがとうございます。

これを受けて、自治会の連合会長は、三高地区の各種団体長で構成する三高まちづくり協議会で報告され、それをもとに五つの自治会長がそれぞれの役員会で、また、PTA会長は、三高小学校のPTA会長、三高保育園の保護者会長に報告をされております。報告を受けた皆さんの反応は、少しおくれでも耐震化ができるのであればと、一様に安心するとともに喜んでいと、このように聞いております。これが、約束でなくて何なのですか。教育長、当事者としてどう思われます。

○議長（山根啓志君） 塚田教育長。

○教育長（塚田秀也君） お答えいたします。答弁でも述べましたけれども、昨年、前田中市長との協議で三高中学校は統合対象校でありますけれども、生徒の安全・安心を考えて、時間をかけて話し合いをしたほうがよいと、そういった考えのもとで耐震化工事に向けた予算計上をすることとしましたけれども、結果的に予算に計上しないということになったということでございます。

しかしながら、第2次答申にありますように、三高中学校は統合対象校であるということ。そして、学校統合は極めて困難な課題に取り組むこととなりますけれども、保護者や地域住民の理解と協力を得ながら実施に向けて努力していくということがございますので、今後、教育委員会としては、統合に向けて話し合いの場を持ちたいというふう考えております。

以上でございます。

○議長（山根啓志君） 2番 酒永議員。

○2番（酒永光志君） 新年度の江田島市一般会計の予算案を見てください。5億円もの多額の補助金を約束する宿泊観光関連施設整備事業、設計等の委託料だけで1億5,700万円を超える消防庁舎建設。また、大型化学高所放水車整備として1億3,000万円、5億8,000万円に上る能美旧本庁舎の耐震化を主とした公共施設再編整備事業、旧江小跡地の国有地を2億円で購入等々、枚挙にいとまがないほどの大型予算が計上をされております。

私は、これらの計画について否定するものではありませんが、その中で、約束された三高中学校の耐震化工事の設計費の予算計上がなされていない。どういうことですか。先ほど、るるそれぞれ自分たちの立場で自分の思いということをおっしゃいましたが、三高中学校を、執行部から耐震化しますと返事をもらうまで何年待ったと思いますか。現に、子供たちは耐震に劣る校舎で今も勉学に励んでおります。三高中学校の空調施設を含めた耐震化工事は、執行部が議会及び市民に約束した事業です。約束どおりの事業執行を三高地域から選出された議員として、また、江田島市の市議会議員として、断固求めます。答弁をお願いします。

○議長（山根啓志君） 土手副市長。

○副市長（土手三生君） 今、酒永議員さんからのいろんな御質問なんですが、市長は、それぞれ4年の任期の中で選挙に立ち向かって、いろいろ選挙に出馬されております。その中で、それぞれの市長の思いはいろんな思いを持って江田島市のことを考えていかなければいけないという判断で、それぞれの選挙に出てきておられます。

今回、明岳市長の今回の御判断は、先ほどの答弁のほうでも申し上げましたように、これまで市長の子供さんのときの経験、それと自分で判断していく中で、基本的には、21年6月の第2次の答申にまず立ち返って、それに基づいて、ずっとほかの学校云々についても統合の方向で進めてきておる中で、三高の中学校の部分がこういった形でまだ進んでないところの部分、もう一度原点に立ち返って、子供さんのそういった教育環境とかそこらの部分ももう一度保護者の方とか地元の方としっかり議論させていただいて、その中でいろいろ御判断をさせていただくような考えを、今回予算編成のときに考えられました。先ほど大型予算事業とか、いろいろ酒永議員さんおっしゃられました。それは、市長の考えの中で、自分で施策を打っていく中で、今、こういった施策を打っていくことが江田島市のいろんな、交流人口の増加とか定住人口の増加とか、そういった部分の中での判断で来ております。三高中学校につきましては、やはり子供さんの教育環境とか、そういった部分を考えたときに、いま一度原点に立ち返って考えてみようじゃないかということの御判断をされたということで、私は、予算の編成のときには、そういうふう感じております。

以上です。

○議長（山根啓志君） 2番 酒永議員。

○2番（酒永光志君） このたびの市長選挙によって、明岳新市長が誕生されました。ただ、土手副市長、塚田教育長さんは田中前市長から引き続いて現明岳市政に入っております。ということは、田中市長のときに決められた約束された事業、それについては、やはり継承していく義務があるのと違いますか。人が、上に立つ者が変わって、そ

のときに、以前に約束されたことが破られるようなことがあっていいんですか。今後もそれではこういうことがあり得るんですか。江田島市には長期総合計画、過疎計画等々のたくさんの計画がありますよ。それで、現市長の意に沿わないもの、それらについては約束されたことであっても平気で覆すというような御意見なんですか。回答ください。

○議長（山根啓志君） 土手副市長。

○副市長（土手三生君） 私は今、そういったようなお話をさせていただいたわけではございません。市長が判断する中で自分がそこらのこれまでのいろんな教育、自分の子供さんのときの状況とかいろんなことを判断する中で、一旦21年の答申に一旦立ち返って、そこらのところをしっかりと考えながらいっていくことをまず選択されてこられたということですので、そこらの部分は市長のお考えの中で判断されたということですので、田中市長も実際、退職いうかやめられるときには、私は私のときの部分のあれはですが、明岳市長にはカラーは出していただいて自分の判断の中でやっていただければということもお聞きしております。それが、今回のこういった形で出たという意味ではございません。あくまでも市長の判断の中で、自分で判断していく中で、三高の子供さんが教育環境がどういった形がいいのだろうということの判断をしていく中で、今回また保護者の方、地域の方ともう一度原点に立ち戻ってお話させていただいて、その判断の中で考えさせてくださいということで今回は見送ったという意味でございます。

以上です。

○議長（山根啓志君） 2番 酒永議員。

○2番（酒永光志君） 前市長からですね、新市長への事務の引き継ぎということがあったと思います。その事務の引き継ぎの中に三高小学校の耐震化工事、空調整備工事と合わせた耐震化工事が、その事務引き継ぎの中に入っておりますか。教えてください。

○議長（山根啓志君） 土手副市長。

○副市長（土手三生君） あくまでも引き継ぎの中には、それぞれ田中市長から明岳市長のほうに引き継ぎの中には懸案事項としては、それぞれのいろんな項目の中で懸案の事項が書かれております。三高中学校についてもそこらの、懸案としては載っております。それは、懸案として残っておるということですので、そこらの部分は明岳市長がそこらを、その懸案の部分をどういうふうに分けて、どういふふうな政策を打っていかれるかというのは市長の判断でされたということですので、何度も繰り返すようなんですが、一旦原点に戻って自分の経験値をもとに、どういった形で子供さんの環境はもっていくのがいいのかという判断で今、今回は見送ったということでございますので、以上です。

○議長（山根啓志君） 2番 酒永議員。

○2番（酒永光志君） 統合についての話が続けておりますので、これまでの経緯について少し話をしたいと思います。

平成21年6月に江田島市統合検討委員会の第2次答申が出されました。三高中学校については、能美中学校の新校舎建設、これは平成25年度に完成しておりますけれども、その時期をめぐって能美中学校に統合するとあります。それについては、承知してお

りますけれども、答申の以後、三高地域において統合について考える会、三高中学校の存続を求める会が発足し、これまで活動を継続しております。これまで幾度も市長、議長、教育長にも説明を求め、また陳情をしてきた経緯があります。その中で回答されたことは、一貫して三高地域の住民、自治会、PTA等の理解承認を得ないで統合を実施することはない、というものでありました。教育長は御存じと思いますが、どうでしょうか。

○議長（山根啓志君） 塚田教育長。

○教育長（塚田秀也君） これまでの学校、統合した学校はそうですけれども、第2次答申にも書いてありますように、保護者や地域住民の理解と協力を得ながらやっていくということと認識をしております。

○議長（山根啓志君） 2番 酒永議員。

○2番（酒永光志君） 私はですね、その中での耐震化に向けての判断をいただいたと、このように認識をしているところです。

これまで、本市において幾つもの小中学校が統合されてきましたが、全て統合ありきの取り組みばかりで、そもそも存続の努力はされてきたのでしょうか。県立大柿高校は、多額の市費を計上し、その存続について市を挙げて努力をしています。当然私も応援する者のうちの1人でございます。しかしながら、市立の小中学校についてはどうでしょうか。これまで統合ありきでことが進められ、存続努力がなされてきたのでしょうか。伺います。

○議長（山根啓志君） 小栗教育次長。

○教育次長（小栗 賢君） 明快な解答になるかどうかわからないんですが、統合ありきで進めてきたというふうには教育委員会は思っておりません。というのがですね、第1次答申にしても、第2次答申にしてもですね、有識者の方々、けんけんがくがくの議論をしてきた、その結果が統合であったというふうに教育委員会のほうでは認識しております。ですからもう、存続をさせるという話も当然この中では出てきていると思います。その結果が、今のこの答申にあらわれていると、それは全員賛成だったか言われたらそうではないかもしれません。苦渋の決断をされた方もいるかもしれません。でも、その中で決まったのは今の統合であるというふうに認識しております。また、教育委員会のほうもその答申内容がこれ全くむちゃくちゃだよ、というのであれば、意見を申し上げるところですが、市長のほうへ答申出されてものと教育委員会の考えも一致しております。ですから、統合に向けてやっていきたいというふうに思っております。

以上です。

○議長（山根啓志君） 2番 酒永議員。

○2番（酒永光志君） 私はですね、存続に向けた努力がこれまでなされてきましたかということを質問させていただきました。今のお答えは答申の説明です。自分たちで、そうは言っても子供たちは、近くの学校でとか、というような思いをたくさんっております。それに向けて、できればこうすれば、この学校は存続できるのではなからうか、大柿高校が80人を割れば、2年続けて割れば、廃校ということが県のほうから出されております。それじゃあ、その80名を下回らないように努力するじゃないですか。現に



しとるじゃないですか。教育委員会は、それはそれぞれの小学校についてその目標値を例えば定めて、じゃあ30名を下回ったらとか、20名を下回ったらとか、そういうような目標値定めて、じゃあそれを超えるように、生徒が少ないんであれば何らかの方法で何らかの努力をして生徒数をふやして、地域の宝である小学校、中学校を存続してあげようというそういう努力をなされてきたかということ、今私は聞いておるんです。お聞きします。

○議長（山根啓志君） 小栗教育次長。

○教育次長（小栗 賢君） 今、議員さん言われたように、例えば20人になったらとか、10人になったらどうするのか、その学校を残すのかというようなことで、地域に学校を残してほしいということだと思います。ただ、教育委員会といたしましては、やっぱり少人数の学校で、今のように1クラスしかないクラブ活動もできないというのであれば、地域にこだわらず江田島市内にはたくさんの学校がございました。通える範囲内で一緒になって子供たちを育てていく、これが一番じゃないかというふうに考えております。ですから、例えば全校生徒が3人の学校、これを残していこう、これはごめんなさい、極端なんです、そうではなくて、周りにいい学校がいっぱいあるんだからみんなで一緒になってやっていきましょう、というのが本当に子供たちのためになるというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（山根啓志君） 2番 酒永議員。

○2番（酒永光志君） 三高中学校の生徒数でございますが、ここ10年来30人から40人を推移しております。残念ながら来年は30人を1名か2名下回るということは、私も承知しておりますが、今後においてもこのままであれば、その30人から40人を推移するということは見えております。私たちも頑張ります。市並びに教育委員会も頑張ってください、小規模校にもいい面、頑張っている面がたくさんあります。三高中学校、三高小学校、それぞれ、また、柿浦小学校、統合対象校になっておりますけれども、それぞれいい面があります。悪い面と考えるのは、それは一部は大人の考えが入っておるかもわかりません。それは、悪い面もあるということについては、正しい面もあるかもわかりませんが、それはそれぞれおのおのが判断することだろうと思います。

前市長はですね、答弁の中で、ことしは三高小の体育館、これは平成28年の三高小の体育館、来年は大柿中学校、再来年は三高中学校、さらには柿浦小学校についても統合しないということになれば、三高中の後に取り組む必要があるとまで答弁をされております。やらないという話では全くありません、とまで昨年この場で言及されております。私が質問した内容、また答弁等については議事録にも残っておりますし、また陳情したもの、その場で説明を聞いたものは、その内容についてはっきりと覚えております。

再度お聞きします。頑張れるうちは頑張らせてください。三高中学校の耐震化についてどうされるか、もう一度お願いをいたします。

○議長（山根啓志君） 土手副市長。

○副市長（土手三生君） 先ほど市長のほうからも答弁の最後に御言葉がありました

が、今後は教育委員会を中心に保護者、地域の方々に説明をさせていただく機会を得ながら子供たちの教育環境を整備してまいりたいと考えております、ということです、しっかり地元のPTAの保護者の方、子供さん、地域の方、そういった方々と原点に戻ってもう一度しっかりと協議を重ねながら進めていきたいという答弁でございますので、そこらのところで御理解いただければと思います。

以上です。

○議長（山根啓志君） 2番 酒永議員。

○2番（酒永光志君） なかなか理解難しいんですけど、今これから地域に入っていくってそれぞれ説明責任というものがございますので、やっていただけるのかと思えますけれども、その時点でやはり統合が難しい、地域、保護者等の同意が得られないというような判断をもしするようになった場合には、どのようにされるおつもりでしょうか。

○議長（山根啓志君） 明岳市長。

○市長（明岳周作君） 先ほどから、酒永議員さんから三高中学校についての存続について強い意志をもっておられるようでございますけども、私も酒永議員さんも元行政マンですよ。そして、学校統合検討委員会の第2次答申で、三高中学校を能美中学校に統合すべきだと先ほど小栗次長のほうからも話がありましたけども、そういう有識者の方が結論を出され、それに向けて努力する、これは当然だと思います。

私は、実は今年の11月の13日に選挙を終えた後に、三高地区の方が来られまして、三高地区はこの中学校を残してもらおうこと、そして深夜便の高速の船便をふやしてほしいという要請を受けました。それから12月の5日に第3代目の市長に就任させていただいた以降もですね、直接来られました、そういう要請を受けました。私は、第一義的に生徒にとって何が大事なんですかということですよ。一番の大事なところ、その方が言われるのは、中学校なくなったら地域が寂れるんだと、小学校、中学校で体育祭あったときなんかみんな地元が集まってやってるんだと、そういうものがなくなるじゃないかと、いう話がありました。ところで、あなたは中学校のとき何人だったんですかと、いやわしのときは40人超えとったと、私もそうです。じゃあ、一体、三高中学校は何人になったら統合するんですかと。誰が責任をもって子供たちのために、そういう教育環境を整備していくんですか。地域の方ですか、それは江田島市、江田島市教育委員会なんですよ。知識をもつ方が、この江田島の地域を見て、やはり三高は能美中学校へ統合すべきだということで能美中学校も耐震化もし、立派な校舎も既にできてます。三高中学校の生徒さん待ってるんです。やはり、生徒にとって何が大事か、いうことを第一義に考えて、もう予算をつけたどうのこうのいう問題じゃないんです。三高中学校の子供にとってどうすりゃいいのか。これを本気で考える。三高中学校のある保護者の方とお話をする機会がありました。三高中学校なくなったら、能美中学校に行かせることがない、広島の方に行く、何という悲しいことを言われるんですか。江田島に中学校なかったら別ですよ。私は、去年1年間といいますか、去年の7月に呉の市役所やめて市長選挙に向かっていろいろ歩きました。各地区回って合併してよかったという人にお会いしたことがない。1つになってないんです。これも1つの本当に例です。三高中学校

がなくなったら広島の方に行く。そうじゃないでしょ。すぐ8キロ先に立派な能美中学校があるんですよ。そこの固定観念、ドミナント・ロジックを変えていかないといけないんです。変化に対応していかないといけない。ここはもう一度、私、教育委員会に申しましたけれども、生徒にとって何が大事なのか、そういうことを再確認して動こうということでございます。

酒永議員さんが、三高地区の方々に対して責任をもって今まで政治活動をやられたということでございますから、私はこのことについて責任をもって教育委員会と三高地区の保護者の皆さんに、教育はどうか、どのようにしたらいいのか、それを根本から訴えをし理解を求めてやっていきたいと思えます。もしか、そういうことがなければ、もともとの統合の答申そのものを変えていかないといけません。それがまず前提です。統合はあるんだよと言いながら今までずっと説明してきたわけですから、私は本当に三高中学校の生徒のことを第一義に考えてやっていきたい、このように思っております。どうぞ御理解いただきたいと思えます。

○議長（山根啓志君） 2番 酒永議員。

○2番（酒永光志君） どこまでいっても、ちょっとそういう理解が得られるような話には本日はならないようでございますが、子供のため、子供のため、三高中の生徒のため、それぞれ思いは我々も三高の保護者も三高地区の住民も一緒でございます。能美中学校に統合する、お母さん方と市長が話をされたとき、今言われました。能美中学校へ行きゃいいじゃないですか、20分もあれば通えるじゃないですか、あなた方は塾に行かしよるでしょ、というような市長からの発言もあったやに、私は聞いております。やはり、その発言によってやっぱりそのお母さん方はですね、それぞれの自分の思いもつとるわけですから、非常にショックを受けております。それは、我々にしても保護者にとっても、三高地区の住民にとっても教育的見地は薄いかもわかりません。教育的知識は劣るかもわかりません。先ほど市長が、私の経験で、経験のことも申されました。その経験というのは、失礼ながら50年前のことです。私も50年前は、三高中学校は3クラスありました。100人を超えて同級生がおりました。しかし、残念ながら時代の変遷でもって現在のところにおいておるわけでございます。子供のこと、教育論からいって子供のことだから、子供のことだからいうて、それが市民の方、保護者の方に受け入れられるものかどうか、これからそれぞれ地域に入って説明をしていただけるということでございますので、それを私は楽しみしております。

この質問について最後になります。覆水盆に返らずという漢の故事があります。一度してしまったことは取り返しがつかない、ということです。地震等の自然災害が発生した場合、小中学校はその避難場所としても使用できます。これは全国の例を見ても明らかであります。私は、このたびは統合ということでなく、三高中学校の耐震化についてのみ質問をさせていただきましたが、執行部のほうから統合の話が出ましたので、若干質問の趣旨からちょっと外れたような討論のやりとりをしておりますが、地域を考えずして、地域の発展をなくして江田島市全体の発展はないと私は思います。

3月11日の土曜日、能美の農村環境改善センターで開催された防災講演会、「忘れない3・11東日本大震災から6年」と題し、元気仙沼市立大島小学校長の菊田榮四郎

先生の講演を、隣におります平川議員とともに涙を流しながら拝聴しました。改めて、震災により犠牲となられた方の御冥福と、いまだ心の傷の癒えない被災者の皆様に、心からお見舞い申し上げ、一日も早い完全復興を祈念するところであります。災害、特に地震はきょうにも起こるかもしれません。西日本大震災、熊本大地震、このとうとい犠牲を教訓として本市としても将来のある子供たちが集う場、勉学の場について一日も早く施設の耐震化を進めることを進言をさせていただき、次の質問の再質問に移ります。

私はですね、質問にも出しました、福山市と同タイプの街路灯が県道や漁港、港湾、その周りに設置されているのを何カ所か確認をしております。現に本日もこちらに来る途中で道路で確認もしてきました。それは、通学路にも設置しており、いずれも設置からかなり年数が経過しているようで、表面が赤くさびつき、付近住民も不安を感じておられます。市民の不安解消のためにも定期的に点検を行い、適切な対応とすべきと思いますが、お考えをお聞きます。

○議長（山根啓志君） 木村土木建築部長。

○土木建築部長（木村成弘君） 街灯等の総点検についてでございます。

施設を適切に維持管理することは、大変重要であるというふうに考えております。そのため来年度からパトロール車を配置し、職員や専属の嘱託員により街灯を含む土木施設の点検パトロールを実施してまいります。また、点検で見つかりましたふぐあいにつきましても、緊急性を考慮しながら適切に修繕していきたいというふうに考えております。

以上です。

○議長（山根啓志君） 2番 酒永議員。

ほぼ最後の質問になるかもわかりませんので。

○2番（酒永光志君） あと5分あります。

江田島市にはですね、危機管理課が所管しております街灯等、先ほど市長の答弁にもありましたが、約5,100本ございます。先ほどの答弁で、国道、県道には332本あって、25年度で点検し修理しているとのことございました。福山市で倒れた街路灯と同タイプのものが本市に何カ所あるかわかれば教えてください。

○議長（山根啓志君） 木村土木建築部長。

○土木建築部長（木村成弘君） 福山市で倒れた街路灯と同タイプの街灯の設置数ということでございますけれども、港湾漁港にあります街灯につきましてもさまざまなタイプがございまして、この福山市と同タイプのものというものを正確には整理はしてございません。ですけれども、大部分のものが交換もしくはアルミ製の支柱ということでございます。

以上です。

○議長（山根啓志君） 2番 酒永議員。

○2番（酒永光志君） 赤くさびて傷んでおるのをほとんどが鋼管製ですね。国道、県道について県が点検実施したとのことですが、その点検結果や内容については県のほうから報告があったのでしょうか。

また、これらの灯については台帳で整理されているのか伺います。

また、もう一気にいきますけれども、せつかく点検をされたとしても、市民にはその街路灯が点検されたものか、いまだされていないのか、判断がつかないと思います。点検した場合は、何らかの方法で街路灯に表示できないものでしょうか。市民に安心感を与えるためにも、例えば設置面から1メートルほど再塗装するとか、点検済みの表示板を下げるとか、考えられませんか、お伺いします。

○議長（山根啓志君） 木村土木建築部長。

○土木建築部長（木村成弘君） まず、1つ目の建具の点検結果についてでございますけれども、これらは定期的に報告のほうをいただいております。適切に修繕しましたよというような形で報告はいただいております。

それから台帳についてですけれども、港湾の漁港にあります街灯につきましては、点検と合わせて整理をし整えたところでございます。

それから、最後に点検結果の表示についてでございます。詳細な点検を実施した際には、該当に点検済みの表示シール、こういったものを表示しまして、市民の皆様にも安心感を持っていただけるようにしていきたいというふうに考えております。

以上です。

○議長（山根啓志君） 2番 酒永議員。

○2番（酒永光志君） ありがとうございます。

このたびもですね、一斉点検の機会と捉えまして市民に対する安全・安心の取り組みを重ねてお願いしまして、以上で私の一般質問を終わります。

○議長（山根啓志君） 以上で、2番 酒永議員の一般質問を終わります。

次に、13番 登地靖徳議員。

○13番（登地靖徳君） 皆さん、こんにちは。私は、新市長の施政方針、これについてお伺いしたいと思います。

新市長が誕生いたしまして、初めての予算編成に明岳カラーが色濃く出ており、その中で人口減対策に積極的に取り組んでいることは、評価に値するものだと思います。人口の減少地域になると、医療や交通、教育、買い物等、生活に必要なサービスの維持が困難になり、地域の産業や雇用、あるいは講を始めとする地域社会のつながりをどうするか課題が山積してまいります。そうして住み続けることへの夢、希望、思いが消えることとなります。一般的に人口の減少は、財政収入の減に比例し、その不足を解消するために住民に費用負担を高め、サービスは悪化となることが多いものであります。このことがさらに人口の減少に拍車をかけることとなります。広島県下で本市がワーストワンから上位に値するものがたくさんあります。水道であり下水道料金、国保料金等の費用負担関連であります。さらには、人口減によりまして、空き家荒廃農地、土地の下落、一層の人口の減少、高齢化、出生率等に課題が発生してまいります。地方自治体は企業経営と共通するものがたくさんあります。それは、斜陽下降曲線に向かったものを上昇し、安定さすには不可能に近い困難が伴うと考えるが、次の2点についてお伺いいたします。

質問の1つ目でございますが、市長の人口の増加に対する熱い思いを感じるが、先般記載されました事業の遂行で実現が可能であるか、お伺いします。また、人口増加の施